

H

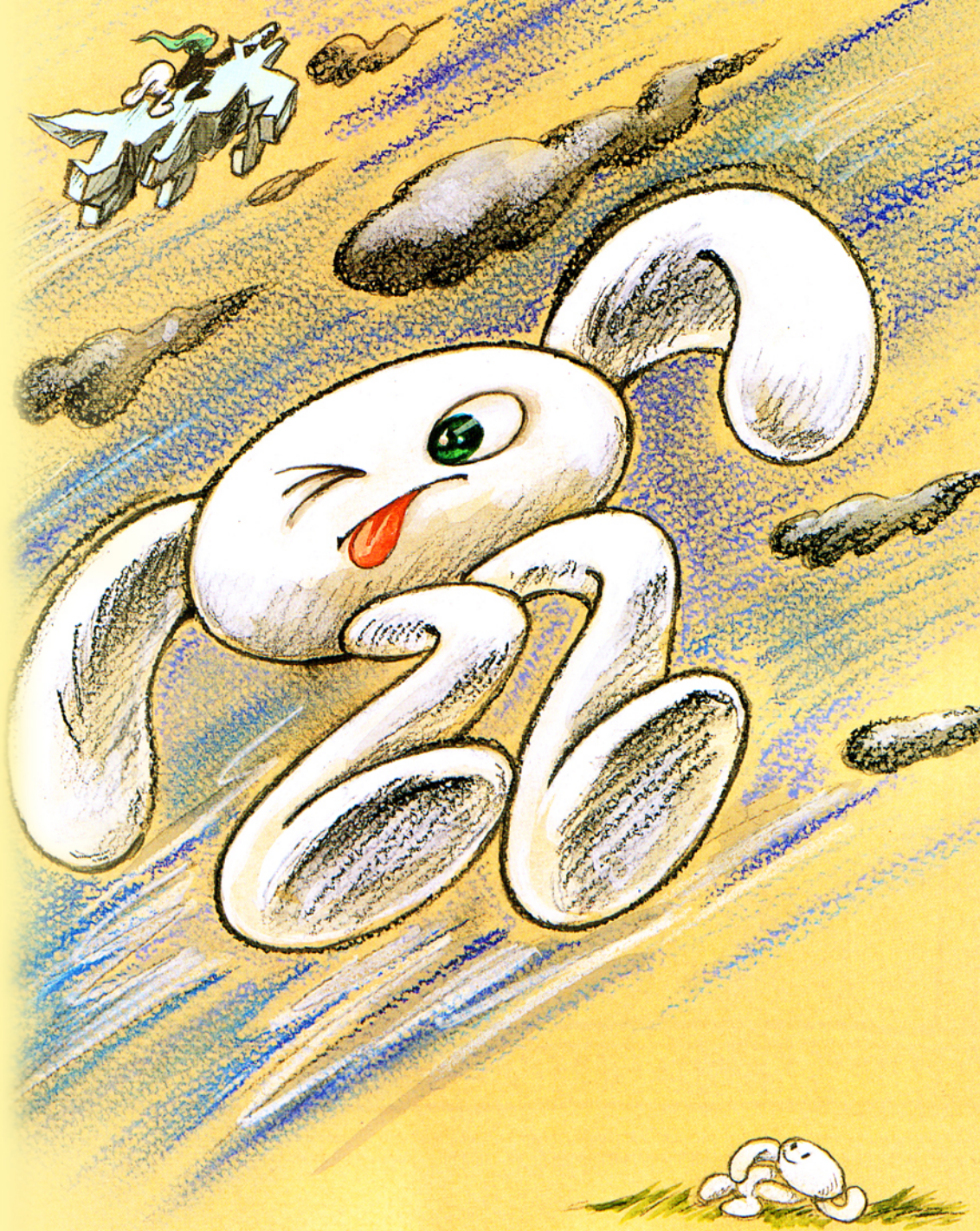
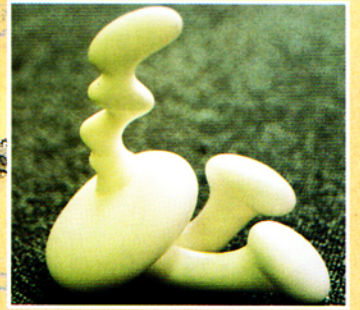
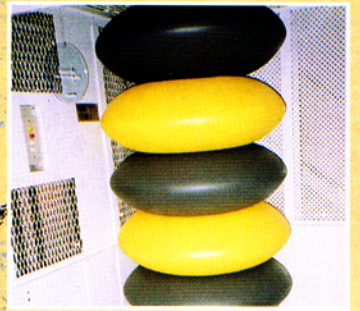
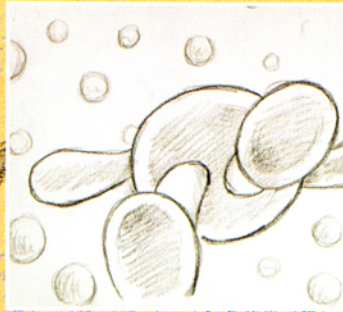
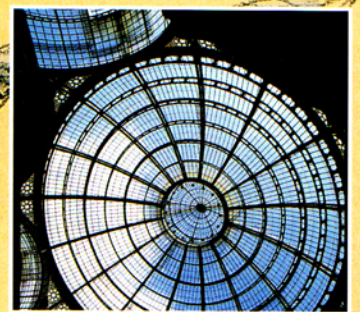
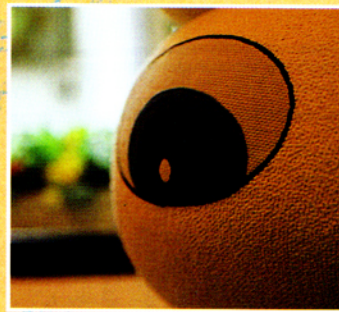


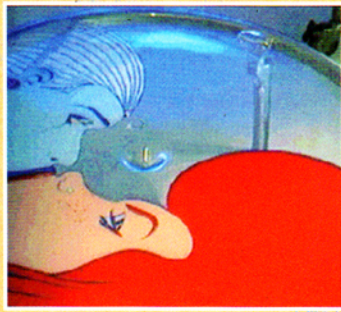
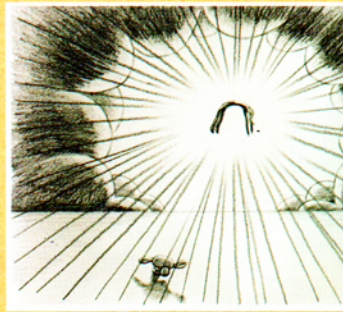
photographix

yuki vs takashi homma

chocolat, supercar and hiromix

松本人志「ビジュアルバム」





イラスト＝鴻池朋子 テキスト＝黒木里恵

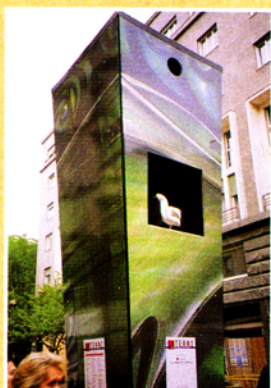
H19号でご紹介したへなちょこポップなソフト彫刻をつくるアーティスト、鴻池朋子さんが再び再登場！この4月に鴻池さんはイタリアのミラノに渡り、「サローネ」と呼ばれるデザインフェスティバルに参加してきたのです。サローネは、世界各国からインテリアを中心とするプロダクトデザイナーやメーカーが新作を発表する、言わばミラノ・インテリア・コレクション。カッシーナなどの有名メーカーからスタルクやインゴマウラーといった個人アーティストまで揃う顔ぶれは様々です。このお祭りが開催される5日間、町全体がサローネ一色になり訪れる人の総数は16万人にもものぼるとか。今回のサローネで鴻池さんが展示したのは、彼女が生んだ謎のソフト・クリーチャー、ミミオ君のアニメーションと立体オブジェ。というわけで、より多くの人に触れてもらおうというコンセプトから生まれたこのキュートなアート作品は、世界の舞台でどう受け止められたのか？ 見事ワールド・デビューを飾ったミミオ君が、デザイン建築のメッカ、ミラノをご案内＆サローネを誌上濃縮展示するアート紀行6Pです！



スフォルツァ城。ここでも中庭で作品展示



ミラノの街にサローネの旗がかげられる



マッシモ・イオザギーニのタワー。
この人のドローイングはコミック的



右の旗はサローネ参加ギャラリーの印。
上の作品は、セーターを着せられたみたい
な毛糸のソファ



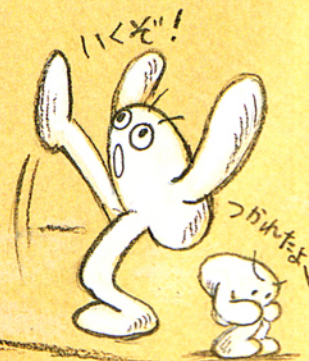
街に7ヶ所シンボルタワーが設置された



カッシーナのイスに座る。スタルクの新作



ギャラリーによく遊びに来るネコ



「海外で展覧会を開きたいって思ったんですね。一年前くらいに。で、ちょうどそういう時に、ミラノで「サローネ」があるっていう話を聞いて。——H19号で「作家のコンセプトと作品を見た人が感じた事との間に生まれる勘違い」を大事にしたいと語ってくれたアーティスト鴻池朋子さん。その彼女が今年の4月にイタリアのミラノで作品を展示してきました。

「サローネっていうのはインテリアのデザインのお祭りで、各メゾンで商品の発表と共にアーティストを使ってイメージ的な展示をするんですよ。街中からアーティストとかデザイナーとか関係者がダッツと集まるから、発表するには非常にいい場所なんですよ。で、自分でもギャラリーを借りて何か展示ができればいいなと思って。そして日本人の男の子たち4人と組んで、船便で40日間かけて作品をミラノへ運んだんです」

鴻池さんがサローネで発表したのは、彼女が産んだ白くてまるでオアシスそうな、めっちゃめちゃかわいいキャラクター、ミミオ君！初挑戦のアニメーションやたくさんのおブジェでミミオ君のお披露目となり、いろいろな人に触れてもらうことができたそうです。そこでHでは、ミミオ君に登場してもらってミラノの街やサローネの模様をイラストでレポートしてもらうことに。母・鴻池さんの話も交えた誌上ミラノ・アート旅行をたっぷりお楽しみください！

「ミラノは街のサイズがすごくいい。コンパクトにできて、街のボリュームが小さい。サローネは、ちよつと歩くとすぐ次の展示会場に行けるみたいな、そういう動きやすい土地だからできるイベントでもあるし。サローネの時は、ミ



美しい中庭に咲き乱れる花々。
夢の庭がいたるところにある

イ気分
やな

The school of Athens



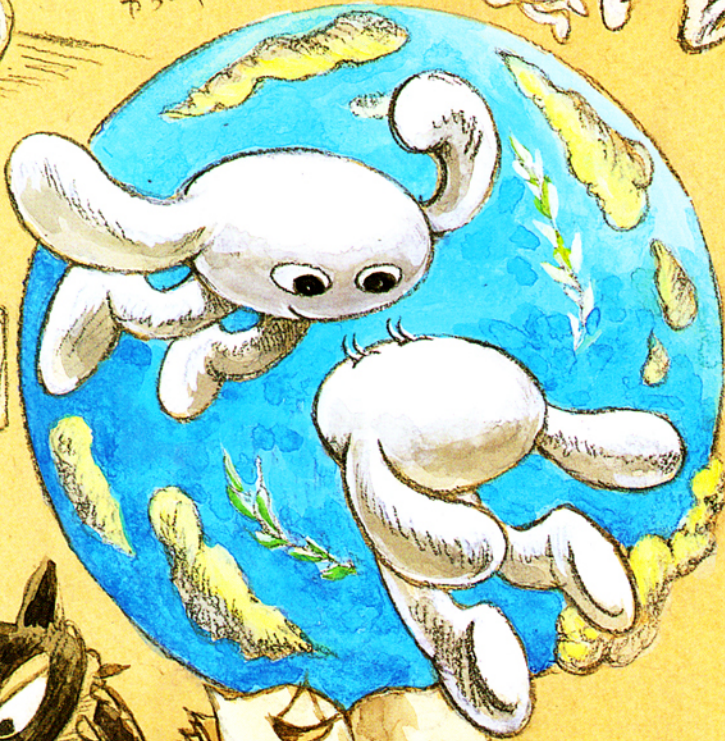
ひとりだけ
がう目線の
ラマエロ本人

アニプローシア美術館
迫力の大作図!



こんな装飾のドアが街中ゴロゴロ

バールビ
ヤッロ4-1



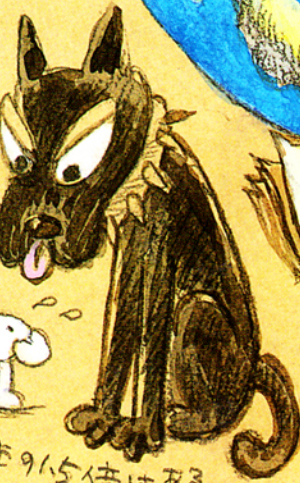
アリア
オーリオ

シロカバ「フット」ルッコラ
うまい食事!

猫もごかい



犬がごかい。日本9/5倍はある



イタリア人はこんな
女生がお好き
(黒髪もイラしい)

ショウインドーは
やっぱりスリッポンドレスはやり
でも素オカしい。楽しい生地



中世の頃よりの建築がたくさん残っている

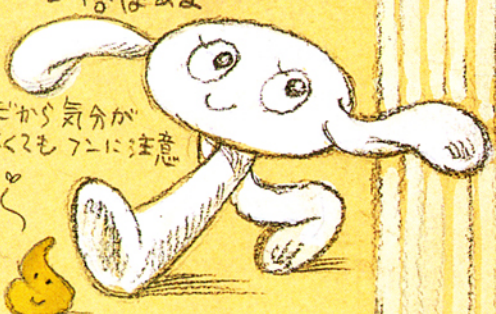


オリ
イタリア産



TOPPO, G

だから気分が
よくてもアニに注意





左がメンバー松本氏の作品。
下は西村氏の「おぜん」



これがワウサの
地下ブルギャラリー



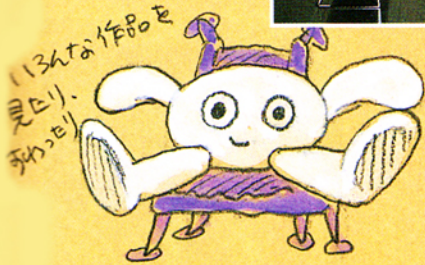
コンテンポラリー・アートギャラリー、ムーデマ。
ここで展覧会をする



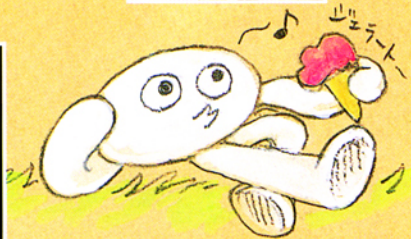
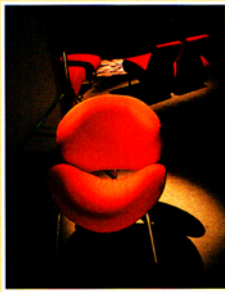
ギャラリーのオーナー、ピピアンヌ



メンバー廣取氏とその作品



他のサロンで見かけた面白い作品たち



メンバー酒井氏の作品



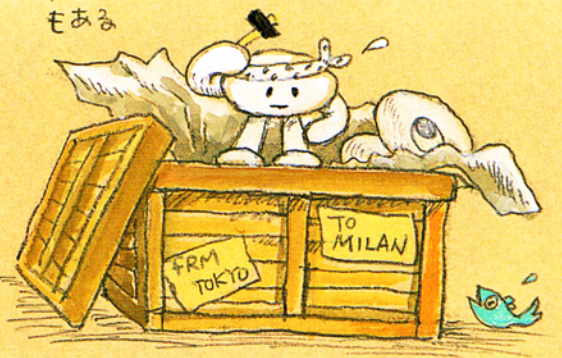
はるばる海を渡って
着いた作品たち
大きな木箱で4個
もある



参加メンバー、左より松本氏、西村氏、酒井氏、廣取氏、鴻池さん



ムーデマのコレクション、ルイジ・セラフィーニの作品

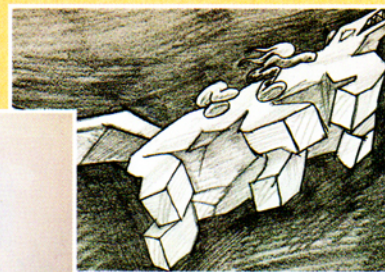


ラノの街のあちこちに旗が立てられるの。街の展覧会マップみたいなのが出て、それを見ながら、こうみんながオリエンテーリングみたいな感じで各ギャラリーを回っていくと。私も取材も兼ねて街中のギャラリーを歩き回りました。街そのものが豪華で、その王宮の中にすくくモダンなものが入っているようなシチュエーションが面白かった。それも半端じゃなくダイナミックだからね。やっぱり昔のものって迫力あるし時代があるから、何を置いても絵になるっていうか、もう素晴らしいんだよね。いわゆる観光で良かったのは、アンブロジーニア美術館かな。2年前に改装されたらしくて中の大理石がきれいな模様になって、建物自体も美しかった。進んで行く順路についてもすくく考えられて、いろんな小作品でまとめているって盛り上げといて、奥にメインの一番大きいラファエロの大壁画があるのね。あれがもう一番だった。

私達が借りたのはすくくいいギャラリーだったの。ギャラリー・ムーデマ。っていう、オノ・ヨーコもかつて展示をやった所で、美術館並の天井の高さやスペースで地下には何とプールがあって、迫力負けするほど立派な感じ。私の作品は……負けてた(笑)。まずバーンと壁面でミミオ君のアニメーションを上映して。みんな涙流して見てた——って嘘ですけど(笑)。やっぱりマリア・カラスの音楽が入ってたからね。音ってビジュアルよりもストリートに反応しちゃうでしょ。じーんってしちゃう要素が強くあるから、そういうところには助けられるよね。それと、ちっちゃいミミオ君のオブジェはすくくいい提案になったと思った



作品には目がないのね



マリア・カラスのアリアと共に置れる短編アニメーション(鴻池作品)と、それにじっと見入る女の子



ソフトスカルプチャー「SOB」とソフトビニールの鴻池作品



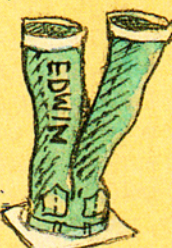
地下プールから見上げたソフトビニールの鴻池作品



鴻池朋子プロフィール: おもちゃメーカーで企画デザインを担当した後、88年よりキャラクター性のある家具や絵を発表する一方、ショップなど空間のトータル的なプロデュースも手がける。97年アグシスギャラリーでの個展「ソフト展」では、フカフカの彫刻を発表。そして今年の9月、新宿のリビンデザインギャラリーOZONEにて個展開催予定。



ミラノコレクション、メーキャップ・アーティストの森田君と



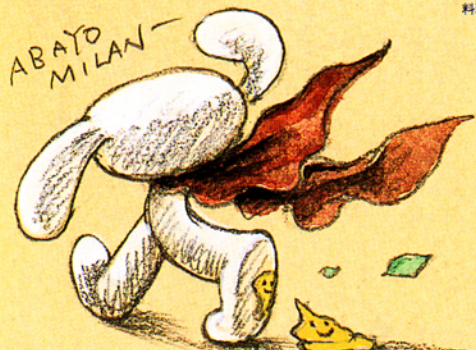
FRPで固められた
アクリル・シースが
広告がやり



大勢の人が訪れてくれて、パーティーが盛り上がっている様子。料理もおいしかった



左はコーディネーターのパトリツィア



し。そうそう、初日のパーティーの時、人がとにかく多かったのよ。作品なんか見ちゃいけないくらいすごかったの。もうミミオが踏まれてるわ、盗まれるんじゃないかと、もうすごい人。その中でカステイリオニっていう超有名大御所も来てくれて。今日本で大御所になっている人たちが影響を受けたような巨匠。私たちにすればおじいちゃんって感じですけど(笑)。ミラノはそういう人が奥さんを連れてふらっと来てくれる、芸術が日常的にある街。それに若いアーティストへの励まし方がすごくうまいのね。単に素敵です、良かったですっていうんじゃない、自分の作品のカタログをくれたりとか、オリジナリティーのある励まし方をしてくれるから、こっちは「嬉しい、やるぞ」って気になりました」